

PLUS CYCLE ケースレポート

～ 老衰により死亡に至った猫の1例 ～

老衰により死亡に至った猫に PLUS CYCLE®を使用した1例についてご紹介します。

■要旨

老衰により死亡に至った猫の PLUS CYCLE データより、死亡10ヶ月前から活動量・ジャンプ回数ともに減少傾向にあり、特にジャンプ回数については顕著な減少傾向が認められた。また、睡眠／休息時間の推移より、死亡10日前よりコーマ状態に至る傾向がイメージできた。

■対象動物

猫 (MIX)、2004年8月1日生れ

死亡日：2021年12月4日 (17歳4ヵ月)

既往症・その他症状：

- ・2017年に歯肉腫瘍を切除した際、SDMA 高値を確認 (BUN, Cre は問題なし)
- ・その後、ワクチン接種のみの最低限の通院のみで明確な罹患／治療歴はなし
→2021年7月のワクチンの際に心雑音に関する指摘あり

■処置

※特に加療なし。

■PLUS CYCLE の利用

2020年11月から PLUS CYCLE を首輪に装着しデータ取得を実施、死亡日までデータ取得を継続した。

■結果

PLUS CYCLE データの傾向より、対象猫の状態について以下のことがイメージできた。
 グラフについては、PLUS CYCLE レポートより抜粋し、各データにおける平均値は対象猫
 と同品種（MIX）の平均値を示している。

活動量の推移

対象猫が死亡する1年前から活動量の推移を確認した結果、徐々に減少していることが認められた。特に、死亡10ヶ月前（2021年2月：赤矢印①）、4ヶ月前（2021年8月：赤矢印②）を基点として活動量の減少が認められた。



また、死亡4日前からは顕著な活動量の減少が認められた（赤矢印）。



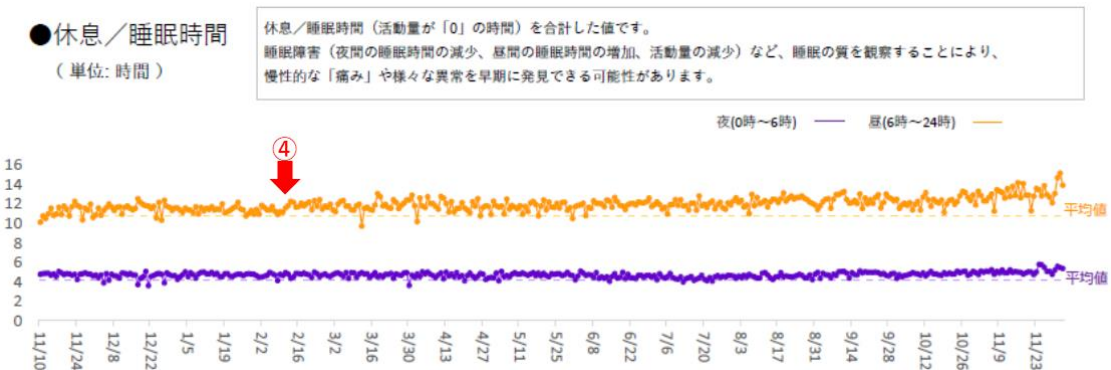
ジャンプ回数の推移

対象猫が死亡する1年前からジャンプ回数の推移を確認した結果、活動量より顕著な減少が認められた。2021年1月まで同品種の平均値付近で推移していたものの、死亡10ヶ月前（2021年1月末：赤矢印③）を基点として顕著に減少し低値での推移が認められた。

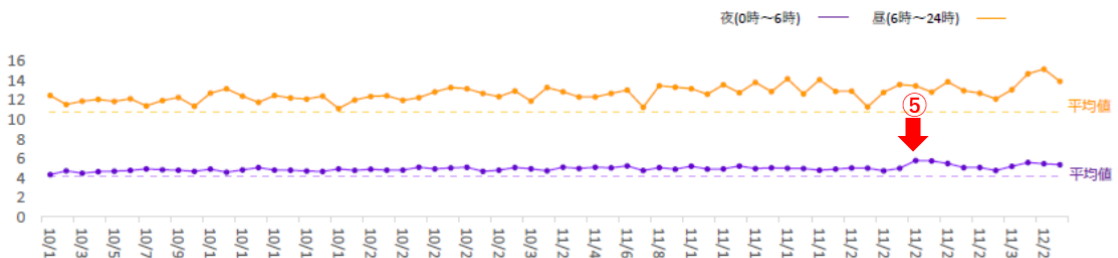


睡眠/休息時間の推移

昼間の睡眠/休息時間について、徐々に増加していく傾向が認められた。増加の基点は、活動量・ジャンプ回数と同じく死亡10ヶ月前（2021年2月：赤矢印④）であった。



また、死亡10日前からは昼間・夜間両方の睡眠/休息時間の増加が認められ（赤矢印⑤）、徐々にコーマ状態に至る傾向が見られた。



■まとめ

今回、老衰により死亡に至った猫の PLUS CYCLE データについて、以下の特徴が認められた。

- ✓ 活動量・ジャンプ回数ともに死亡 10 ヶ月前より減少傾向にあることが認められた。特にジャンプ回数については、顕著な減少傾向にあり、老衰の進行がイメージできた
- ✓ 昼間の睡眠／休息時間が死亡 10 ヶ月前より徐々に増加し、死亡 10 日前からは昼間・夜間において明らかな増加が認められており、コーマ状態に至る推移がイメージできた。

■PLUS CYCLE スタッフより一言

老衰に至る経過を活動量の徐々な減少、ジャンプ回数の顕著な低下により客観的なデータとして確認でき、老衰の経過における Supportive Data として利用できる可能性が示唆されました。シニア期の患者に PLUS CYCLE をご利用いただくことにより、飼主様へ老衰の進行をお伝えする際のサポート的な利用、何らかの処置をご提案する際のご参考にして頂ければと思います。

以上